でのホットケーキ朝食会(ホットケーキ3枚、ハム1枚、飲み物で一人5ドル）は沢山の市民やボランテイアも参加してくれました。グッズ販売も含めて利益はすべて青少年プログラムの充実に向けられました。また、西部開拓記念館での記念夕食会には政府関係者や他機関の仕事仲間も大勢駆けつけてくれて大成功でした。

「違いはお互いの宝」

私はファミリープログラムを担当していますが、始める前には家庭訪問をし、悩み事や関心を聞き出して、参加者にあったより有効なプログラムを組みます。週1度、2時間で、10ー12週で一区切りの1回限りの参加ですので、その後のフォローアップは、電話相談、家庭訪問、他機関への紹介等で、長いサービスを心がけています。概して、初対面なのに親か姉妹かと信頼してくれる人が多く、時にはその交際は仕事の時間や域を超えてしまいます。初対面はお互い言葉がわかりませんから、身振り手振りです。それでも、心と心、世界共通です。家庭訪問で得た資料をカナダ人の相棒と分かち合い、プログラムを進めるわけですが、お互い「知りたい」「知らせたい」の一心で頑張っています。他機関のワーカーへの難民移民認識講座も定期的に行っています。また、同じ様に難民移民を補助している機関の代表が集まって少なくとも年に一度は情報交換、研修会を開いています。また、月に一度、メンタルヘルスのカウンセラーが来て、私達のクライアントの問題を一緒に考え、解決法の相談に乗ってくれます。共存共栄は難しそうに思われるかもしれませんが、個人尊重の姿勢を全身で表すと、国、言語、文化、風習、諸々の違いは障害になるどころか、お互いの宝としてもっと豊かな人間関係に導いてくれる事も多いです。母国での躾の違いや蒙古斑を児童虐待と誤解されて、共に泣きながら福祉機関に理解してもらったりして絆を深めているのです。

「サスカツーンに行くの?だったら是非、オープンドアを訪ねて、ファミリープログラムを取りなさい」って言われやって来た移民もいました。

移民と難民の違いをご存知でしょうか?　移民は国を選べるけれど、難民は戦争の為に祖国を追われ、行く国も選べずにやって来るのです。私の働く機関は7割以上が難民で、それぞれが深い絶望と過去を背負ってやって来ますので、自分たちがどれほどの力になっているか自信喪失も度々です。14才から21才までの7年間、密林で動く物があれば敵味方なく銃を撃ち続けて、難民キャンプを経てやっとカナダに到着した若者がいました。彼は、同国出身の女性と知り合い3人の子供をもうけ、平和な家庭を築きたかったのに得体の知れない怒りと猜疑心を抑える事が出来なくて、妻に暴力を振るい、その度に刑務所に入れられて、結局妻子と別れてしまいました。あるいは、夫を目の前で射殺され、子供たちを背負い手を引いて逃げ惑う時に子供を見失ってしまった女性。話を聞いていて言葉を失います。私自身がセカンドトラウマに落ち込んでしまいます。

州のNGO研修会

そんな私の生き様を認めて（?）、市は「リビング・イン・ハーモニー」賞をくれ、国は地域社会貢献の小さな勲章をくれました。国や州や市の認識とサポートが私たち職員と新市民の励みと生きる力になっているのです。

我が家も多文化構成に

最後に我が家の人間構成をちょっとお知らせしましょう。息子二人は日本人と結婚し、娘二人はカナダ人と結婚しました。一家が集まると日本語と英語が飛び交い、和洋折衷の食事を楽しみます。8月には孫が8人になりますがそのうち3人は混血です。婿たちの態度や配慮は嫁やわが子らと何ら変わらず、4家庭とも、私と主人が夢中でやってきた子育て方法を同じようにやっています。多文化社会の共存共栄はこんな小さな世界にも実現されているのです。

末娘の花嫁衣装姿

高谷　尚子

札幌に生まれる。札幌西高等学校、藤女子大学英米文学部卒業

1965年　札幌大谷学園英語教師。その後、結婚
1974年　大学教授の夫君のサバティカル・リーブでカナダ滞在
1976年　家族とカナダに移住
　　サスカチュワン州サスカツーン市に住む
1990年　サスカツーン・オープンドア協会に就職、
　　難民移民の補助プログラムを担当
　　以来、プログラム・ファシリテーター、
　　ファミリーアウトリーチワーカー、リエゾンワーカー
　　として現在にいたる
1992年　カナダ建国125周年記念勲章を受勲
1994年　サスカチュワン大学教育学部伝承言語教師免許を取得
2000年　北海道家庭生活総合カウンセリングセンターにて
　　1級カウンセラー資格認定を取得

著書など

「子づれカナダ移住記」(北海道新聞社)。北海道新聞連載「暮らしのエアメール」、「Hoppoken」誌（北方圏センター季刊誌）連載「海外レポート」、その他北海道内の雑誌などに寄稿多数。NHK記録番組「北からの出発」出演。また、帰国時には、藤女子大学ほかで特別講義を担当するなどカナダの生活を紹介。

カナダの多文化主義

広大な国土（総面積約997万km²。日本の約27倍）と豊富な資源に恵まれたカナダは発展のために早くから積極的に移住者を受け入れてきた。現在、イギリス系、フランス系、先住民族以外の民族出身者がカナダの全人口（約3,200万人。2005年カナダ統計庁）に占める割合は5分の2に上っている。2001年の国勢調査によると、カナダ人の18.4%が、カナダ以外の国で生まれた移民一世であり、カナダ人の18%は複数の母語を持つか、公用語である英語やフランス語以外の母国語を話す。

1962年に制定された「カナダ移民法」はその後、教育、技術能力によっていずれの国から来る移民をも受け入れを認め、難民認定の手続きや移住希望者の増加に応えるため都度改正されて今日に至っている。1971年に、英仏2カ国語を公用語とし、その中で様々な文化を育む「多文化政策主義」が発表され、88年「カナダ多文化主義法」が制定された。外国からの移住者はカナダ社会の一員になるためにどちらかの言語で教育を受け、かつ自身の出身民族文化を大切にすることが可能になっている。

第二次世界大戦以前は、カナダへの移住者の大半はヨーロッパ出身者であったが、戦後はアジア、南米、カリブ海諸国からの移住者数が増え、カナダの多文化モザイクを形作っている。

在日カナダ大使館ウェブサイトから抜粋
http://www.canadanet.or.jp/about/mosaic.shtml